

彦根市乳幼児教育・保育

指針、共通カリキュラム

平成28年9月

彦根市福祉保健部幼児課

目 次

彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラムの作成に当たって	P. 1
彦根市乳幼児教育・保育指針	P. 2
1 彦根市における乳幼児教育・保育の現状と課題	P. 3
2 保育目標	P. 4
* 合言葉	
3 めざす子ども像	P. 4
4 指針	P. 5
指針 1 生きる力を育む教育・保育の充実	P. 5
指針 2 小学校につながる円滑な接続	P. 6
指針 3 職員の資質向上	P. 6
指針 4 家庭や地域社会との連携	P. 6
彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラム	P. 7
共通カリキュラム・指導計画の位置付け	P. 7
6 か月未満児	P. 8
6 か月から 1 歳 3 か月未満児	P. 10
1 歳 3 か月から 2 歳未満児	P. 12
2 歳児	P. 14
3 歳児	P. 16
4 歳児	P. 18
5 歳児	P. 20

彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラムの作成に当たって

本市では、子どもを取り巻く支援施策を総合的・計画的に推進するための指針として、市民ニーズを踏まえた施策の充実に向けた取組を進めてきました。平成 17 年に策定した「子どもきらめき未来プラン」およびその後の後期計画、そして平成 26 年度に策定した「彦根市子ども・若者プラン」に基づき、0 歳から 39 歳までの継続的・一体的な支援を行っています。

現在、公立 3 園、民間 22 園の認可保育所 25 園、小規模保育事業 1 園、公立 10 園（うち分園 1 園）、私立 1 園の幼稚園 11 園、そして私立認定こども園 1 園があります。少子化や核家族化の進行等により、幼稚園は入園児の定員割れが見られる一方で、0～2 歳児の保育ニーズがますます高くなってきているため、保育所では利用待機児童が増えています。

そこで、社会の変化に伴う多様な保育ニーズへの対応や、家庭・地域の子育て力の低下に対する子育て支援が喫緊の課題となるとともに、公立幼稚園施設の老朽化や保育所利用待機児童の解消への対策と合わせて、平成 29 年度から公立幼稚園 1 園を認定こども園へ移行することとなりました。

これまで、本市では、幼稚園は幼稚園教育要領や彦根市教育方針を基に、また、保育所においては保育所保育指針や人権カリキュラムを基に、各園の教育課程や保育課程を作成し保育に当たってきました。しかし、平成 26 年度から、保育所と幼稚園の所管が福祉保健部に一本化されたのを受け、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期に、誰もが等しく質の高い教育・保育を受けられるよう、これまでの本市の乳幼児教育・保育の在り方を見直すことになりました。子どもの実態から見えてくる課題を整理し、様々な環境の中で、一人一人の発達段階に応じたねらいや内容、育ってほしい力を明確にした教育・保育を、幼稚園教諭・保育士相互の共通理解の下で進めていく必要があります。

そこで、幼稚園・保育所・認定こども園とそれぞれに在籍する場は違っても、子どもの最善の利益と、学びのある遊びと生活が保障され、生涯へつながっていくことを目指し、乳幼児教育・保育の基本となる共通カリキュラムを作成し、教育・保育の充実を図っていきます。

彦根市乳幼児教育・保育指針

よく考え夢中になって遊ぶ子ども

★考える子ども

★自ら動き出す子ども

たくましく

健やかな子ども

★乗り越える子ども

★自立する子ども

心豊かに

人とつながる子ども

★感じ取る子ども

★人とつながる子ども

〈めざす子ども像〉

〈保育目標〉

心豊かでたくましく生きる力を育む

〈合言葉〉

①びきあう ②ころとからだの ③ねっこづくり

指針1:生きる力を育む保育・教育の充実

- (1) 基本的な生活習慣の形成
- (2) 豊かな心と健やかな体の育成

指針2:小学校につながる円滑な接続

- (1) 学びの基礎の育成
- (2) 保幼小中の連携や研修・交流による相互理解

指針3:職員の資質向上

- (1) 職員研修の充実
- (2) 保・幼・認定こども園の人事交流
- (3) 特別支援教育の推進

指針4:家庭や地域社会との連携

- (1) 保護者支援と家庭教育の推進
- (2) 地域社会における子育て支援の充実
- (3) 身近な地域の人々との交流の充実

1 彦根市における乳幼児教育・保育の現状と課題

近年の様々な社会状況の大きな変化は、乳幼児を取り巻く環境にも著しい変化をもたらしています。本市においても、市街地における都市化・少子化・核家族化・共働き家庭の増加・祖父母や地域との関わりの希薄化などが顕著に見られ、多様な就労形態や子育てニーズへの対応が求められています。

このような中、子どもを守り育てる地域や家庭の大きな揺らぎは、子育ての伝承の難しさとなり、子育て家庭の孤立化、育児不安や育児負担・虐待の増加、家庭の教育力の低下へつながってきています。また、IT化、グローバル化、生活の利便性、スピード化などは、社会のめざましい発展を生む一方で、格差社会を生み、子どもたちの生活に大きな影響を与え、実体験やコミュニケーションの機会の減少をもたらし、子ども同士が育ち合いの中で得る心身の豊かさ、生きる力の低下にもつながってきていると言えます。

さらに、小学校以降の教育現場においては、生活経験の不足から、体力や意欲、自尊心や規範意識の低下等の課題とともに、小1プロブレムや中1プロブレムといった接続期の課題も見られ、乳幼児期から小学校以降へ円滑な接続を図り、発達と学びの連続性を大切にしていく必要があります。

そこで、少子高齢化社会を迎えた時代に、学校教育、生涯学習と連携を取りながら、子どもたちの育ちを支え、将来持続発展可能な社会の担い手として、生きる力を備えた人間の育成を目指します。

2 保育目標

心豊かでたくましく生きる力を育む

*合言葉

ひびきあう 心とからだの ねっこづくり

乳幼児期は一生の土台になる根っこの部分を作る時期です。この大切な乳幼児期に、心と身体は相互に影響し合い響き合いながら発達していきます。土台となる根っこをたくましく育てることは、子どもの健やかな成長を促し、生きる力へとつながっていきます。そのために、園、保護者、家庭、地域、関係機関、行政など子どもに関わる全ての人が手を取り合い、一人一人の子どもの育ちを支えていきたいと考えます。

3 めざす子ども像

乳幼児は大人によって生命を守られ、愛され、かけがえのない存在の人間として尊重され、信頼されることにより情緒が安定するとともに、人への信頼感が育ちます。この信頼感が、身近な環境への興味や関心、自我の芽生えとつながっていき、様々な環境に対して主体的に関わり、生活や遊びを通して体験を積み重ねていく中で、心身の健やかな発達が促され、生涯にわたる生きる力の基礎となります。

そこで、彦根市の乳幼児教育・保育のめざす子ども像を

- ① 心豊かに人とつながる子ども・・・感じ取る子ども・人とつながる子ども
- ② よく考え夢中になって遊ぶ子ども・・・考える子ども・自ら動き出す子ども
- ③ たくましく健やかな子ども・・・乗り越える子ども・自立する子ども

としました。

- ① 心豊かに人とつながる子ども・・・感じ取る子ども・人とつながる子ども

遊びや生活の中で様々な感情を味わい、感動できる心を育てます。楽しい、うれしいといったプラスの体験だけではなく、悔しい、悲しい、思い通りにいかないといった体験も、子どもの発達や成長の過程に必要なこととして大切にしながら、身近な大人がしっかりと支えることが大切です。乳幼児期の感情体験・感動体験が、豊かな人間性や思いやりを持った人間の成長につながると考えます。

また、遊びや生活の中で、身近な大人や友達と過ごしながらか、一緒にいることの喜びや安心感を味わうようになります。様々な葛藤を経験する中で、仲間と遊びや生活をともにすることの楽しさや充実感、役割分担や力を合わせる協同性などを感じ取り、自分なりの人との距離感や関わり方を身に付けていくのです。

② よく考え夢中になって遊ぶ子ども・・・考える子ども・自ら動き出す子ども

遊びや生活の中で、興味や関心、疑問などに対しその原因や理由を考えたり、追求しようとする力や、空想力や想像力を働かせて新しいものを生み出す力が学びの基礎となると考えます。そして、感じたり、考えたりしたことに対し主体的に関わり、試したり工夫したりして実行・実践していく力や、生きていく上で必要な基礎・基本の技術や知識を得ようとする力を身に付けていきます。

③ たくましく健やかな子ども・・・乗り越える子ども・自立する子ども

基本的な生活習慣を身に付け、食育や運動遊びを通して健康で活動的な体を作ります。そして「いのち」や人権を大切にす、心身ともにたくましい力を培っていきます。

遊びや生活、友達関係などの中で挫折や失敗を経験したときに、別の方法でアプローチしたり、自分の気持ちに踏ん切りや折り合いをつけたりして乗り越え、前に進もうという気持ちが持てるたくましさも必要です。

また、やってよいこと、悪いことを体験の中で感じ取り、自分で考え、判断する中で、道徳性や規範意識の芽生えを培っていきます。

集団生活の中で自分や他人のよさにも目を向け、互いを認め合いながら自己肯定感を育み、自信が持てるようになることを目指します。

4 指針

指針1 生きる力を育む教育・保育の充実

(1) 基本的な生活習慣の形成

- ・早寝、早起き、朝ごはんなどの生活リズムの形成
- ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度の育成
- ・きまりやルールの習得
- ・家庭との連携

- (2) 豊かな心と健やかな体の育成
 - ・「いのち」や人権を大切にする心の育成
 - ・道徳性の芽生えの育成
 - ・進んで体を動かそうとする意欲や体力の増進
 - ・食育や環境教育の推進
 - ・絵本や物語に触れる機会の充実
 - ・地域の自然・文化・伝統を取り入れた保育の推進

指針2 小学校につながる円滑な接続

- (1) 学びの芽生えの育成
 - ・思考力、創造力、探究心、人と関わる力、自己表現力、主体的に取り組む姿勢、規範意識
- (2) 保幼小中の連携や研修・交流による相互理解
 - ・幼児と児童、生徒の交流の推進
 - ・幼児教育と小学校教育の相互理解
 - ・学びの連続性
 - ・発達の共通理解

指針3 職員の資質向上

- (1) 職員の研修の充実
 - ・職員の豊かな人間性・感性を培うための自己研鑽
 - ・保育者の専門性を高めるための研究や園内研修の推進
- (2) 保育園・幼稚園・認定こども園の人事交流
 - ・合同研修会、公開保育の実施
 - ・保育実践や保育内容の共通理解
- (3) 特別支援教育の推進
 - ・保護者・専門機関との連携、支援体制の確立
 - ・発達支援研修の充実と個に応じた保育の実践

保育者の資質5か条

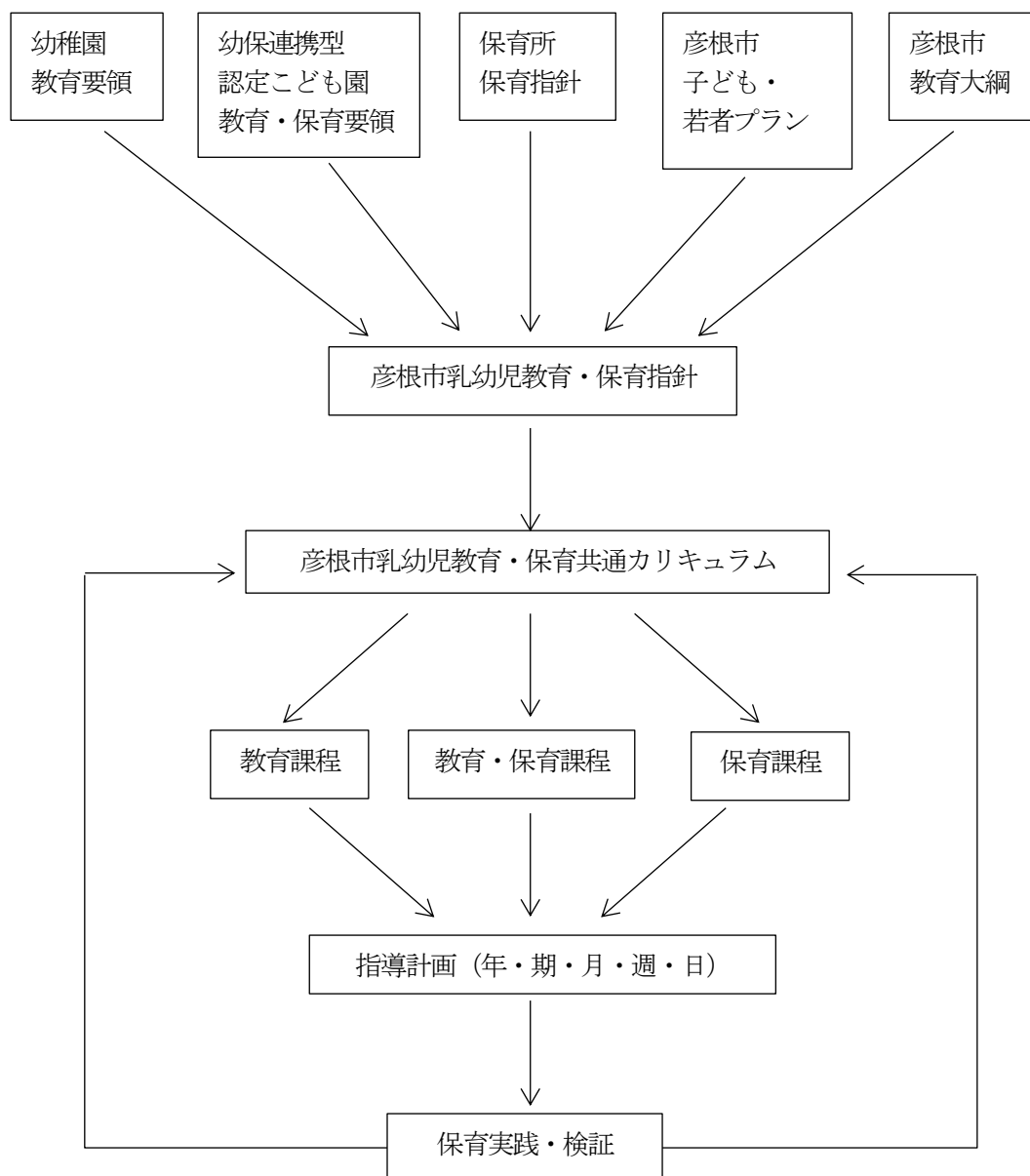
ひ…一人一人に応じた
こ…声かけと環境作り
に…にこにこ笑顔と
や…優しい心で
ん…安心感を与える保育者

指針4 家庭や地域社会との連携

- (1) 保護者支援と家庭教育の推進
 - ・子育て相談、保護者の養育力の向上
- (2) 地域社会における子育て支援の充実
 - ・保育ひろば、子育て相談や情報の発信
- (3) 身近な地域の人々との交流の充実

彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラム

【共通カリキュラム・指導計画の位置付け】



※彦根市乳幼児教育・保育共通カリキュラムに基づき、保育実践・検証を行い、共通カリキュラムの見直しを行っていく。

6か月未満児

主な発達の特徴 <おおむね 6か月未満>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月頃には、微笑みも生理的的微笑からあやすと笑うなど、社会的微笑が見られる。 ・特定の保育者が積極的に働きかけることにより、保育者との間に情緒的な絆が形成される。 ・快・不快の感情が、子どもの要求の受け止め方や大人の働きかけにより分化してくる。 ・目が合うと相手に微笑みかけたり、声を出して笑ったりする。 ・大人があやすと「アー・ウー」など、舌を使わないで母音を発するようになる。(クーイング) ・抱っこされることで安心して機嫌がよくなる。 ・感情豊かに受け止め、優しく体と言葉で応答することにより、子どもは自分のした行動の意味を理解するようになる。 ・5か月頃になると、生理的な快・不快の表出が、感情を訴えるような泣き方をしたり、保育者の声に反応したり、顔をじっと見つめたり見回したり、笑いかけ声を出すようになる。 ・母親や特定の保育者には声を出して笑いかけるが、見慣れない人にはジーっと見つめる。
人間関係 環境 言葉	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月頃には、機嫌のよいときはジッと見つめたり、周りを見回すことができるようになり、周りで物音がしたり、大人が話していると声の方を見たり、上下左右に動くものを追視する。 ・小型の玩具等が手に触れると、少しの間握ったり、振ったり、ながめたりする。 ・快・不快を、笑ったり泣いたりして、表情の変化や体の動きで表現する。 ・物に触れるときに手指がパツともみじ状に開くことができる。 ・4か月頃には、手に持った物を口に入れたり、手でいじったり、からめたり、目の前の物をつかもうとする。 ・親指と手のひらで物をつかめるようになる。 ・赤・青・黄色等のカラフルな色合いや、音に魅力を感じるようになる。 ・姿勢に合った遊びを楽しむようになる。
表現 (食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・母体内から外界への環境の激変に適応する。 ・月齢が低いほど体重・身長が増加が大きく、次第に皮下脂肪も増大し丸みを帯びてくる。 ・新生児期においてモロー反射、手や足の把握反射、口唇探索反射、吸てつ反射が活発になる。 ・授乳時、満腹になると乳首をくわえたまま気持ちよさそうに眠ることもある。 ・4か月頃までには、左右非対象から左右対称の姿勢が取れるようになり、首が座りはじめる。 ・5か月くらいからは、目の前の物をつかもうとしたり、手を口に持っていったりするなど、手足の動きが活発になる。 ・視覚、聴覚などの感覚の発達がめざましくなる。 ・首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ・うつ伏せにすると、両手で腹ばいになって上半身をそらす。 ・空腹になったり、眠くなったり、オムツが汚れたりすると、泣いたりぐずったりする。 ・哺乳量が一定し、授乳時間がほぼ決まってくる。 ・ひざに座り、抱っこされながら食べられるようになり、スプーンからすすって飲めるようになる。 ・一日のうち睡眠と目覚めを何度も繰り返す。 ・4か月頃からは、眠っているときと目覚めているときがはっきり分かれ、夜と昼の睡眠パターンができてくる。 ・便に形ができはじめる。

おおむね 6か月未満

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生活リズムを重視して、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たす。 体の状態を細かく観察し、病気や異常を早く発見し、快適に生活できるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの状態に応じて、スキンシップを十分に取りながら心身ともに快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。
		心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> 「笑う」「泣く」「発声」などに対して、優しく応答してもらうことを喜ぶ。
内 容	教 育	よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる人的・物的環境の下で、聞く、見るなどの感覚の働きが豊かになる。
		たくましく 健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じて授乳してもらい、健やかに発育・発達する。 安全で活動しやすい環境の下、寝返りや腹ばいなどの運動的な活動をしようとする。
		健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かに人とつながる子ども 一人一人の生理的欲求を十分満たし、保育者の愛情豊かで受容的なかわりにより、気持ちのよい生活をする。 優しく語りかけてもらったり、歌いかけてもらい、目を合わせて泣き声や喃語に伝えてもらったりする。 機嫌のよいときには盛んに喃語で話す。 一対一のかかわりの中で抱っこしてもらい、ゆったりとした揺れを感じながら安心して過ごす。 特定の保育者とのスキンシップやかかわりの中で、何度も繰り返し遊ぶ心地よさを喜ぶ。
育 言 葉	よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> 音を聞く、物を見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分にさせる。 優しく声をかけてもらいながら、聞いたり、見たり、触ったりできる玩具などで遊びを楽しむ。 保育者と笑顔をかかわすことで、遊んでもらうことを期待して待つ。 保育者に優しく言葉をかけてもらったり、歌いかけてもらうことでかかわりを楽しむ。 	
	表現 (食育)	<ul style="list-style-type: none"> たくましく 健やかな子ども 健康な状態で生活することができる。 発育の状態を把握してもらう。 体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしてもらう。 授乳は、抱いて微笑んでもらったり、優しく声をかけてもらったりし、ゆったりとした気持ちで過ごす。 ミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れる。 きれいになったオムツの心地よさを感じる。 清潔で肌触りのよい、ゆったりとした衣服を着て、快適に過ごす。 授乳、食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭いてもらい、気持ちよさを感じる。 立位で抱かれたり、屈伸、腹ばいなど体位を変えてもらう。 	
	環境構成・ 援助の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 身体機能の未熟性が強く、病気にかかりやすく、また、生命の危険に陥りやすいため、体の状態の急激な変化に対応できるように、一人一人の子どもの状態を十分に観察する。 心身両面の未熟性を考慮して適切な保護・世話をすることが大切であり、安全の確保や病気予防に努める。 愛情豊かで適切な保育者とのかわりが、子どもの人格形成の基盤となり、情緒や言葉の発達に大きく影響することを認識し、子どもの様々な欲求を適切に満たし、子どもとの信頼関係を十分に築くように配慮する。 	
家庭・地域・ 関係機関 との連携	<ul style="list-style-type: none"> 個々の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭と連携を取りながら、個人差に応じて保育するように心掛ける。 日々の連絡帳や送迎時を通して、子どもの様子を伝え合い、状況を把握し、共通理解をする。 		

6か月から1歳3か月未満児

主な発達の特徴 <おおむね 6か月から1歳3か月未満>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者とのかかわりができてきて、甘えたり、後追いをしたり泣いたり、人見知りをしたりする。 ・知らない人の顔を、わざわざ見て泣く。 ・快・不快の表現、表情がはっきりし、身近な人や欲しいものに興味を示し、自分から近づこうとする。 ・保育者との応答的なかかわりにより情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどのやり取りが盛んになる。 ・喃語が「ンマンマンマ」「ナンナンナン」など二音の反復的音声になり、簡単な言葉の意味が分かり始め、「マンマ」「ブーブー」などしきりに使う。 ・「ありがとう」「バイバイ」「ちょうだい」など、身振りを模倣し、言葉掛けに身振りで応答する。 ・欲しいものを指さして示すようになる。
人間関係 環境 言葉 表現	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・なめる、噛む、しゃぶるなどの感覚を楽しむようになる。 ・視野が広がり、目の前以外のものにも興味を示し、引っ張る、つまむ、出し入れなど手を動かし、探索活動が盛んになる。 ・安心できる大人が歌など口ずさむと、手拍子をしたり、体を揺らしたりして喜び、真似をしようとする。 ・手に持てる大きさの玩具、きれいな音のする玩具にかかわって遊ぶことを好むようになる。 ・好きな絵本を読んでもらうことを喜び、真似をしたり言葉を発するようになる。 ・興味を持った身近な素材（砂・水・土）に触れて、感触を楽しむようになる。
(食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・6か月頃より、母体から得た免疫が弱まり、感染症にかかりやすくなる。 ・離乳が始まり、いろいろな味や形状のものが食べられるようになる。 ・舌で押し出したり、味を確かめて飲み込んだり、口をあんぎあんぎ動かして食べる。 ・食べさせてもらうことを喜び、スプーンなどの道具に興味を持ち始める。 ・離乳食は2, 3回食となり、徐々に幼児食になる。 ・寝返り、座る、這うことができるようになる。 ・7か月頃から一人で座れるようになり、座った姿勢で両手を使うことができるようになる。 ・9か月頃までには、這うことや両手に物を持って打ちつけたり、たたき合わせたりすることができるようになる。 ・1歳前後には、つかまり立ち、伝い歩きもできるようになり、外への関心も高まってくる。 ・午前睡、午後睡から、一定時間安心して眠れるようになる。 ・生活のリズムが一定になってくる。

おおむね 6か月から1歳3か月未満

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの生活を重視して、生理的欲求を満たす。 体の状態を細かく観察し、病気や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
	教 育	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の優しい語り掛けや、発語や喃語への応答により、発語の意欲が育ち、自らかかわろうとする。
		よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる人的・物的環境の下、五感を通して、感覚が豊かになる。
内 容	教 育	健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生理的欲求が十分に満たされ、保育者の愛情豊かな受容により、気持ちのよい生活ができる。 人の顔がわかり、特定の保育者にあやしてもらうことを喜んだり、応えようとする。 特定の保育者との愛着、信頼関係を築くことで、自由に安心して遊ぶ。 喃語や片言を優しく受け止めてもらい、発語や保育者とのやりとりを楽しむ。 喃語が盛んになり、気持ちや欲求を「アー、ウー」など声に出したり、表情や身振りで伝えようとする。
		環境 言葉 表現	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で保育者のすることに興味を持ち、動作を真似たり、繰り返し遊ぶことを楽しむ。 保育者が歌ったり、手遊びするのを喜んだり、歌やリズムに合わせて体を動かし、模倣したりして遊ぶ。 興味のあるところに自ら移動し、触る、なめる、見る、登る、降りる、押す、引くなどして遊ぶ。 好きな絵本を読んでもらい、まねっこ遊びをする。 保育者と一緒に色彩のある絵や身近な絵本を見る。 戸外に出ることや散歩に行くことを喜び、周囲の物事や動物などに興味を持つ。
		たくましく 健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気の中で、喜んで食事をし、離乳が進み、次第に幼児食に移行する。 一人一人の状態に応じた離乳食を食べることで、いろいろな味や形態に慣れる。 個々の生活リズムを大切にされ、眠い時は安心して十分に眠る。 オムツが汚れたら優しく声をかけてもらったり、こまめに取り替えてもらうことで、清潔であることの心地よさを感じる。 寝返り、座る、這う、立つ、伝い歩きなど全身の動きを十分に経験し、探索遊びをする。 両手に物を持って打ちつけたりし、手をしっかり動かして遊ぶ。
環境構成・ 援助の ポイント		<ul style="list-style-type: none"> 感染症にかかりやすいため、子どもの日常の状態の観察を十分に行い、変化が見られたときには適切に対応する。 離乳食は、保護者や調理師・看護師等と連絡を密にして、一人一人に合わせた形状や量を話し合い進めるようにする。 一人一人のリズムを大切にしながら、安心して午睡できるようにする。 指先を使った遊びや寝返り、這う、伝い歩きなど全身を動かす遊びなどが十分に楽しめるよう、衛生的で安全な環境を整える。 人見知り、不安、甘え、怒り、など、一人一人の感情表現をしっかりと受け止め、応答やスキンシップ等で、保育者との愛着心が深まるようにする。 	
家庭・地域・ 関係機関 との連携		<ul style="list-style-type: none"> 個々の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭と連携を取りながら、個人差に応じて保育するように心掛ける。 アレルギーの有無を確認し、医師の診断や指示書の下、除去食の対応をする。 日々の連絡帳や送迎時を通して、子どもの様子を伝え合い、状況を把握し、共通理解をする。 	

1歳3か月から2歳未満児

主な発達の特徴 <おおむね 1歳3か月から2歳未満>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康 人間 関係 環境 言葉	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ大人の言うことが分かるようになる。 ・言葉を話すようになり、身近な大人に片言を言ったり、指さしや身振り、朝夕の挨拶ができたりする。また物の名前を知りたがったりする。 ・二語文で自分の意志や要求を伝えようとし、受け止めてもらおうと喜ぶ。 ・保育者や友達のことを関心を持ち、歌や言葉などの真似をする。 ・友達や周囲の人への興味や関心が高まり、友達と共感する。 ・大人の反応を感じながら、よいこと悪いことに気付いたり、場面の切替が少しずつでき始め、周りの状況に応じて自分の要求をおさめたりすることができる。 ・自我の芽生えがめざましく、自己欲求が高まる。 ・自分の所有物が分かり、自分の物だということを主張する。
表現 (食育)	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を話すようになり、一人遊びを楽しむ。 ・身近な身の回りのものに興味を持つ。 ・生活体験から、玩具を通して実物に見立てることができるようになる。 ・簡単な歌やリズムに合わせて、体をゆすったり動作を真似たりできる。 ・繰り返しの絵本や気に入った絵本などを喜んで見たり、言葉を繰り返し言おうとする。 ・いろいろなものに興味を持ち、探索活動や模倣遊びが活発になる。 ・色の認識（三原色）ができるようになったり、手や指を使って遊ぶようになり、型はめ、積み、つまむ、転がす、はずすなどができるようになる。 ・穴のあいた玩具や玩具に棒や紐を通したり、まっすぐな線画からぐるぐるの円画になる。 ・水・土・砂など様々な感触を楽しむ。
	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・歩き始め、自分の意志で自分の体を動かすことができるようになる。 ・体のバランスの取り方が発達し、しゃがむ、ぶら下がる、跳ぶなどができるようになる。 ・離乳が完了し、自分で食べたいという意欲が芽生え、食べ物の好き嫌いが出てくる。 ・スプーンやフォークを使って、こぼしながらも一人で食べようとする。 ・個々の排泄のリズムが整い、身振りや簡単な動作、言葉で排泄を知らせる。 ・1回の午睡になり、生活リズムが一定してくる。 ・手洗い・鼻かみなどを、保育者や友達と一緒にしようとする。 ・簡単な衣服の着脱を自分でしようとしたり、保育者と一緒にしようとする。

おおむね 1歳3か月から2歳未満

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生理的欲求や甘えなどの依存欲求を満たし、快適な生活を送れるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりとした家庭的な雰囲気を大切にし、一人一人の甘えが十分に満たされ、安心して過ごせるようにする。
	教 育	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる保育者との関係の下、生活や遊びの中で自分でしようとする気持ちが芽生える。
		よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々な物に、自由に触れて好奇心や関心を持つ。
		たくましく 健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる保育者との関係の下で、食事・排泄などを通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。 安全で活動しやすい環境の中で、全身を使った遊びを楽しむ。
内 容	教 育	健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かに人とつながる子ども <ul style="list-style-type: none"> 保育者との信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができる。 保育者や友達のしていることに関心を持ち、真似したり一緒にやってみようとしたりする。 生活や遊びの中で、保育者を仲立ちとして、簡単な片言、言葉の繰り返しや模倣、物のやり取りをする。 保育者と触れ合ったり、友達と一緒に歌ったり話をしたり、同じしぐさをすることを通してやりとりを楽しむ。 周りの大人の反応を感じながら、よいことと悪いことがあることに気付く。
		環境 言葉 表現	<ul style="list-style-type: none"> よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども <ul style="list-style-type: none"> 保育者に見守られ、一人遊びを十分に楽しむ。 行動範囲が広がり、探索活動の中で、身の回りの物、好きな玩具等に興味を持ち、見たり触れたりする。 好きな玩具や遊具、自然物に自らかかわり、遊ぶ。 保育者の話しかけや絵本を読んでもらうことを喜んだり、簡単な単語を使ったりする。 保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。 たたく、つまむ、転がすなど、手や指を使う遊びを楽しむ。 ちぎる、破く、クレヨンなどでなぐり描きをするなど、手や指先を使った遊びを楽しむ。 砂遊びや水遊びなどを楽しみ、物の感触や色・形への興味を持つ。
		(食育)	<ul style="list-style-type: none"> たくましく 健やかな子ども <ul style="list-style-type: none"> 歩く、登る、降りる、走る、跳ぶ、しゃがむなどの全身を使った遊びを楽しむ。 リズムと相手の動きを体で理解し、一緒に歩くことを楽しむ。 いろいろな食べ物に興味を持って口に入れてみる。 楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらいながら食べたり、自分で食べようとしたりする。 保育者に誘われ、立ってズボンを脱ぎ、オムツを交換したり、きれいになった心地よさを感じる。 保育者の見守りの中で安心して眠る。 顔や手が汚れたときは拭いてもらい、きれいになった快さを感じる。 『自分で』という気持ちを受け止めてもらいながら、自分でやってみようとする。
環境構成・ 援助の ポイント		<ul style="list-style-type: none"> 感染症にかかることも多いので、発熱などの体の状態、機嫌、食欲、元気さなどの一般的状態にも十分な注意を払って観察を行う。 歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索活動が活発になり、予測できない行動も多くなるので、環境や活動の状態、子どもの相互のかかわりなど、十分な注意を払う。 遊びと生活のコーナー分けをし、個々のリズムに合わせた生活を保障できる環境をつくる。 温かい見守りの中、子どもの発見や驚きを見逃さず受け止め、好奇心や興味を満たすようにする。 	
家庭・地域・ 関係機関 との連携		<ul style="list-style-type: none"> 日々の連絡カードや送迎時、家庭訪問、懇談会などのやりとりの中で、子どもの様子を伝え合い、悩みや成長の喜びを共有する。 	

2歳児

主な発達の特徴 <おおむね 2歳>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とかかわって遊ぶことが増えるが、自己主張が強くなり、思い通りにいかないと泣いたり、かんしゃくを起こしたりする場面が現れる。しかし、見守ってくれる保育者の存在によって、時間をかけて自分の気持ちを立て直すことができるようになる。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達とかかわって遊ぶことを楽しむようになる。 ・自分の物と他人の物が分かるようになる。 ・発声、構音機能が急速に発達して発声がより明瞭になり、語彙の増加がめざましくなる。 ・日常生活に必要な言葉が分かるようになり、不十分ながらも、自分の思いを言葉で伝えられるようになる。 ・生活や遊びの中で、保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむようになる。 ・興味を持った動作や言葉を真似たり、保育者や友達と簡単なごっこ遊びができるようになる。
人間関係 環境 言葉 表現	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を使った遊びに意欲を示す。 ・丸などを描いたり、描いたものに意味づけを始める。 ・押さえたり、引っ張ったり、ねじったり、粘土などの素材を変形することができるようになる。 ・簡単な折り紙を折ったり、積み木やブロックで形を作ろうとするようになる。 ・身近なものや事柄に関心を持ち、「なぜ?」「どうして?」などと知りたがったり、見たり触れたりして探索しようとする。 ・大きさや形の違いに気付く。 ・身近な動植物に関心を持ち、見たり触ってみようとする。 ・見立て遊びができるようになる。 ・簡単な繰り返しやリズムカルな言葉の絵本を選び、「読んで」と繰り返し要求する。 ・砂・水・土など様々な感触を楽しみ、心地よさを感じる。 ・保育者や友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに乗って体を動かすことを楽しむようになる。
(食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な身の回りのことで、自分でできることが増えてきて、自分でしようしたり、できないところを手伝ってもらいながらしようとする。 ・スプーンやフォークを使い、こぼしながらも自分で食べる。 ・苦手なものを励まされて食べてみようとする。 ・衣服の前後が少しずつ分かるようになり、着脱を自分でしようとする。また、保育者と一緒にたたむことができる。 ・排泄の間隔が長くなり、自分からトイレに行ったり、保育者に促されたりしながら排泄しようとする。 ・保育者に見守られながら、手洗い・うがい・鼻をかむなど身の回りを清潔にしようとする。 ・生活のリズムがほぼ一定になり、自分で布団に入り、安心して眠れるようになる。 ・かけっこやジャンプなど、全身を使った遊びをする。 ・動きの速さ、高低が分かるようになる。

おおむね 2歳

ね ら い	養 護	生命の保持	・健康で安全に過ごせる環境を作り、快適な生活が送れるようにする。
		情緒の安定	・一人一人の気持ちを十分に受け止め、信頼関係を深め、安心して過ごせるようにする。
		心豊かに人とつながる子ども	・安心できる保育者との関係の下、生活や遊びの中で自分でしようとする。
ね ら い	教 育	よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	・身の回りの物事に興味や関心を持ち、かかわろうとする。
		たくましく 健やかな子ども	・安心できる保育者との関係の下で、食事・排泄等の簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育者と一緒に全身や手・指を使った遊びを楽しむ。
		心豊かに人と つながる子ども	・保育者に様々な欲求を受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを表す。 ・友達と遊ぶ中で、保育者が仲立ちとなり簡単なきまりや順番などがあることを知る。 ・生活に必要な簡単な言葉を聞き分けたり、様々な出来事に興味を示し言葉で表す。 ・生活や遊びの中で、保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・興味のあることや経験したことを自分なりに表現する。
内 容	教 育 環 境 言 葉 表 現 (食 育)	人間関係	・身近な自然物や事象に興味や関心を示し、「これは?」「なに?」と質問をしたり探索したりする。 ・ごっこ遊びや模倣遊びを楽しみイメージを広げる。
		よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども	・つまむ、丸める、ちぎる、折る、描くなど手指を使った遊びを楽しむ。 ・保育者と一緒に砂・水・土・紙などの様々な素材に触れて楽しむ。 ・様々な遊びを通して、大きさや形の違いに気付く。 ・好きな玩具や遊具を自ら選び、使って遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と、簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。
		たくましく 健やかな子ども	・保育者に見守られ自分の身の回りのことを自分でしようとし、できたことに喜びを感じる。 ・楽しい雰囲気の中で、自分で食べようとする気持ちを持つ。 ・尿意・便意を知らせたり、保育者に声を掛けてもらったりなどして、見守られながら排泄する。 ・保育者の見守りの下、簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。 ・自分で布団に入り、体を休める。 ・保育者の手を借りながら、手洗い・うがい・顔拭き・鼻拭きを少しずつ自分でする。 ・歩く、走る、跳ぶ、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びを楽しむ。
環境構成・ 援助の ポイント		・保育者との信頼関係を築き、自分の思いを出しながら、安心して過ごせる援助・環境づくりをする。 ・身の回りのことを自分でしようとする姿を見守りながら、できたときは十分にほめ、できた喜びを味わえるようにする。必要に応じて自分でできるように援助を行い、励ます。 ・自己主張がぶつかり合う時には、保育者が間に入ってそれぞれの思いを受け止め、言葉を補い、友達とのかかわりや言葉のやり取りを十分楽しめるようにする。 ・遊びと生活のコーナー分けをし、自ら主体的に、また安心して生活できる環境をつくる。	
家庭・地域・ 関係機関 との連携		・自己主張をする時期であることを知らせ、家庭でも子どもの思いをしっかりと受け止め、見守ってもらえるようにする。また、日々成長していく子どもの姿を知らせ、家庭での様子を聞き、ともに成長を喜びながら、信頼関係を深める。 ・職員間で、常に子どもの様子や家庭環境、それに伴う課題を共有し、保護者の相談に応じたり、専門機関と連携を図ったりする。 ・子どもが地域の自然や人々・行事とかかわる機会をつくる。	

3歳児

主な発達の特徴 <おおむね 3歳>

保育内容	めざす子ども像	主な発達の特徴
健康	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の援助やかかわりを心地よく感じながら、園の生活に慣れる。 ・遊びや生活の中で、異年齢児とかかわり、親しみや憧れの気持ちを持つ。 ・自分の好きな遊びを楽しみながら友達の姿に興味を持ち、友達の姿を真似たり、気の合う友達と一緒に遊ぼうとする。 ・自分のしたいことや欲しいものなどの思いが強く、トラブルになることがある。思い通りにいかないことやうまく伝わらないことがあるが、保育者と触れ合う中で不安感が和らぎ、興味や関心が広がる。 ・平行遊びが多いが、友達と一緒に遊ぶ中で、少しずつ順番を守ったり、友達と分け合ったりできるようになる。 ・安心できる人間関係の下で、自己を発揮し、お手伝いをしようとしたり、認められることを喜んだりする。 ・いろいろな言葉を自分から使うようになるとともに、言葉を交わす心地よさを味わう。
人間関係 環境 言葉	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人や事象に関心を持ち、身の回りの大人の行動や、日常の経験を遊びに取り入れようとする。 ・砂・土・水などの自然物や身近な動植物に関心を示し、見たり触ったりして遊ぼうとする。 ・周りの事象に関心を持ち、「なぜ」「どうして」という質問をする。 ・簡単なストーリーが分かるようになり、絵本に登場するものになったり、動きを真似たりする。 ・指先の発達により、道具を使って造形遊びが楽しめるようになる。
表現 (食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が自立することで、「自分でできる」という意識が芽生え、行動できるようになる。 ・個人差はあるが、食事・排泄・着替えなどがほぼ自分でできるようになり、生活の仕方も分かってきて、身の回りのことを自分でしようとする。 ・基礎的な運動能力が育ち、基本的な動作ができるようになり、自分の体をコントロールしようとする。(歩く、走る、跳ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶら下がる、蹴る等) ・箸やスプーンを使って一人で食べられるようになるが、好き嫌いがはっきりしてくる時期で、食事に時間がかかることもある。

おおむね 3歳

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的欲求が満たされ、健康で安全に過ごせるようにする。 ・生活の流れが安定する中で、食事・排泄・睡眠・衣服の着脱など、基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことができるようにする。
	教 育	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に親しみ、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな表現活動を楽しむ中で、語彙を豊かにし、言葉のやりとりを喜ぶ。
		よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境や事象に興味や関心を広げ、遊ぼうとする。
内 容	教 育	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活の仕方が分かり、身の回りのことなど、自分でできることは自分でしようとする。 ・保育者や友達と体を十分動かして、いろいろな遊びを楽しむ。
		健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と簡単なルールやきまりを守って遊ぶ。 ・身近な友達に親しみを感じ、興味や関心を持ち、自分なりにかかわろうとする。 ・興味を持って保育者や友達の話の聞いたり、自分の要求や思いを、言葉やいろいろな表現で伝えようとする。 ・ごっこ遊びや絵本を通じていろいろな言葉に触れる機会を持つ。 ・挨拶や返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 ・保育者や友達と触れ合いながらいろいろな表現遊びを楽しみ、十分に体を動かして遊ぶ。
		環境 言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心があるものに、五感を通じて体験することを楽しむ。 ・身近な人々の生活を取り入れ、なりきってごっこ遊びを楽しむ。 ・身近な動植物や自然に興味を持ち、見たり触れたりして遊ぶことを楽しんだり、開放感を味わったりする。 ・生活や遊びの中で、身の回りのものの色・数・量・形などに興味を持つ。 ・いろいろな素材に触れる遊びを十分楽しむ。 ・様々な素材や用具を使って、描いたり作ったりする。
		表現 (食育)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に、衣類の着脱・排泄・食事など生活に必要な活動を自分で行うとする。 ・保育者とともに、身の回りを清潔にしたり、自分の身を守ろうという気持ちを持って、生活の場を整える。 ・一日の生活の流れの中で、自分なりに見通しを持ち、活動する。 ・十分に体を動かし、様々な遊具や用具を使った運動や遊びを楽しむ中で、危険な遊び方について気付く。 ・音楽に親しみ、いろいろな体の動きや、表現を楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に食事をすることで、基本的な食事のマナーを知り、様々な食材に興味を持ち、楽しんで食べる。
環境構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉掛けを豊かにし、自分の思いを言葉に代えて表すことができるよう、導いていく。 ・言葉だけでは十分に理解できないため、視覚支援などを用いてわかりやすく示し、安心して活動できるようにする。 ・自分の遊びに集中できる空間を保障しながら、友達の姿が意識できるような環境をつくる ・保育者と一緒に安心して自分の遊びが楽しめるよう、十分な用具・材料・時間を準備する。 ・玩具や身の回りのものの片付けがしやすいよう、決まった位置に分かりやすく表示する。 		
家庭・地域・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や、家庭訪問・懇談会などの中で子どもの様子を伝え合い、悩みや成長の喜びを共有する。 ・3歳半健診を受けるように啓発するとともに、子どもの発達等で気になることについては適切な援助ができるよう、保護者や関係機関と連携を取り合う。 		

4歳児

主な発達の特徴 <おおむね 4歳>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康 人間関係 環境 言葉 表現	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がいることの喜びや楽しさを感じるようになり、友達に積極的にかかわろうとするが、自己主張がぶつかり、トラブルも起きる。 ・少しずつ交代や順番・我慢などの経験を通して、友達とのかかわりが増える。 ・ルールの大切さに気付いて守ろうとしたり、楽しんだりするようになってくる。 ・自分の思いを言葉や態度で表現し、相手に伝えようとする。 ・聞いた言葉や覚えた言葉をどんどん使おうとする。
(食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れが分かり、身の回りの始末などはほとんど自分でできるようになる。 ・全身のバランスが取れて体の動きが巧みになり、いくつかの動きを同時に行ったり、進んで体を動かしたりする。 ・手先も器用になり、ひもを通す、結ぶ、はさみで切るなどができるようになる。 ・箸を使っておおむね食べられるようになり、保育者や友達と一緒に楽しんで食事をする。

おおむね 4歳

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付け、健康で安全に過ごせるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いを受け止め、安心して過ごせるよう、信頼関係を深める。 主体的に活動する中で満足感や充実感を味わえるようにする。
		心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> 様々な友達とかかわり、自分なりのイメージを持って遊びを楽しむ。 保育者や友達とのつながりを広げ、仲間との関係の中で自分を発揮して遊ぶ。
ね ら い	教 育	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に興味を持ってかかわり、遊びに取り入れたり、遊びに積極的に取り組んだりする中で、自分の感じたことや気付いたことを様々な方法で表現する。 様々な事象に興味や関心を持ち、試したり遊びに取り入れたりする。
		たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全に過ごすための基本的な生活習慣を身に付ける。 全身を動かして遊ぶことを存分に楽しむ。
		健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具を使って存分に体を動かして遊んだり、友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しんだりする。 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わったり、考えたりして、一体感や満足感を味わう。 友達と生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 自分の思いや考えを、言葉で友達や保育者に伝えることを喜ぶ。 友達にも思いや考えがあることを知り、受け入れようとする。 絵本・紙芝居などを楽しみ、様々な言葉に興味を持ったりイメージを広げたりする。 生活に必要な言葉が分かり、挨拶をしたり話しかけや問いかけに応答したりする。
内 容	教 育	健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具を使って存分に体を動かして遊んだり、友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しんだりする。 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わったり、考えたりして、一体感や満足感を味わう。 友達と生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 自分の思いや考えを、言葉で友達や保育者に伝えることを喜ぶ。 友達にも思いや考えがあることを知り、受け入れようとする。 絵本・紙芝居などを楽しみ、様々な言葉に興味を持ったりイメージを広げたりする。 生活に必要な言葉が分かり、挨拶をしたり話しかけや問いかけに応答したりする。
		環境 言葉 表現	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や遊びの中で発見したことや感じたことを保育者や友達に伝え、自分のイメージを持って話す。 身近な事象に興味や関心を持ち、考えたり、試したり、遊びに取り入れたりする。 日常生活の中で数や量・形などに関心を持ち、遊びに取り入れる。 イメージしたことを様々な素材や用具を使ってかいたり、つくったりする。 自分なりのイメージを持ち、なりきって遊んだり、いろいろなものに見立てて遊んだりする。 音楽に親しみ、保育者や友達と一緒に、歌ったり、楽器を鳴らしたりして遊ぶ。
		(食育)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方が分かり自分から進んでしようとする。 自分の体に関心を持つ。 様々な遊具や用具を使って、存分に体を動かして遊ぶ。 いろいろな遊びに興味を持ち挑戦しようとする。 友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。 食事のマナーを身に付け、保育者や友達と楽しく食事をする。また、食材や調理する人への感謝の気持ちを持ち食べようとする。
環境構成 援助の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に戸外遊びを取り入れ、様々な遊具や用具とたくさんかかわれるようにする。 保育者が子どもの思いに共感したり、励ましたり、解決方法を知らせたりすることを繰り返しながら、友達や身近な人の気持ちを理解できるようにする。 生活や遊びの中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする気持ちを持てるようにする。 自分の気持ちや思っていること、経験したことを友達と伝え合ったり、話し合ったりすることの楽しさを味わえるようにする。 植物の栽培を通して、収穫したものを食べることの楽しさや感謝の気持ちを持てるようにする。 		
家庭・地域・ 関係機関 との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長や発達について保護者に具体的に伝え、共通理解を図る。 必要に応じて関係諸機関と連携を取り、支援をする。 散歩に出かけ地域の人々と触れ合う。 自然・人材・行事や公共施設など、地域の資源を生かしながら生活体験に取り入れるようにする。 		

5歳児

主な発達の特徴 <おおむね 5歳>

保育 内容	めざす 子ども像	主な発達の特徴
健康	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児としての喜びと緊張感が混在する。 ・異年齢児に親しみを持ってかかわったり、一緒に遊ぼうとしたりする。 ・責任を持って当番活動や手伝いをしようとする。 ・思いを強く主張し、トラブルが起こるが、友達と一緒に問題を解決しようとする。 ・様々な遊びに取り組む中で、いろいろな友達のよさに気づき、友達関係を広げていく。 ・共通の目的に向かってクラスの友達と協力していこうとする。 ・相手の思いに気付いたり、自分の思いや考えを伝えようとする。 ・言葉によってイメージを伝え合ったり、目的に向かって集団で行動したりすることができる。
人間 関係 環境 言葉 表現	よく考え夢中になって遊ぶ子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びに見通しを持って行動する。 ・友達とイメージや目的を共有し、グループで相談したり問題を解決しようとする。 ・自分なりに工夫して遊びを楽しみ、継続的に取り組むようになる。 ・身近な環境にかかわり、疑問を持って調べたり、試したりする。 ・身近に起こる出来事に興味や関心を持ち、遊びの中に取り入れていこうとする。 ・物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識する。 ・自分の目的に向かって黙々と取り組む中で、試行錯誤しながら満足いくまで楽しむ。 ・友達と見せ合ったり比べ合ったりしながら、自分たちの遊びをより豊かなものにしようとする。 ・文字や数に関心を持ち、遊びに取り入れようとする。 ・自分の経験したことや考えたことを話し、互いに伝え合う喜びを感じる。 ・自分のイメージしたようにかいたり、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をするなど、様々な方法で、工夫して表現することを楽しむ。
(食育)	たくましく健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身に付き、園生活に見通しを持ちながら行動する。 ・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身に付いてくる。 ・体全体を協応させた運動をするようになり、集団で行う遊びや複雑な運動遊びができるようになる。 ・手先の器用さが増し、紐を結ぶ、雑巾を絞るなどといった動作に加え、様々な用具を扱えるようになる。 ・固定遊具等、友達の刺激を受けながら、進んで挑戦しようとする。 ・自分なりのめあてを持って、運動遊びに取り組む。 ・仲間の中で様々な葛藤を経験しながら、自分への自信と友達への親しみや信頼感を高める。 ・様々な食材に興味を持ったり、食べ物と体の関係に気付いたりして、好き嫌いをしないで食べようとする。

おおむね 5歳

ね ら い	養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> 自分のできることの範囲を広げながら、健康・安全など基本的な生活習慣を身に付けるようにする。
		情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主体的に活動し、子ども相互の関係の中で自己肯定感を育むようにする。
	教 育	心豊かに人とつながる子ども	<ul style="list-style-type: none"> 年長児としての自覚や自信を持っていろいろな友達とかかわり、共通の目的を持ったり、協力して活動したりする。
よく考え 夢中になって 遊ぶ子ども		<ul style="list-style-type: none"> 自ら身近な環境に働きかけ、様々な活動の中で試行錯誤や自己発揮をしながら意欲的に取り組む。 	
たくましく 健やかな子ども		<ul style="list-style-type: none"> 健康・安全など生活に必要な習慣を身に付け、見通しを持って生活を進めていく。 体の使い方を知り、多様な動きを組み合わせる存分に遊び込み、達成感を味わう。 	
内 容	教 育	健康 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にルールを守って、集団遊びを自分達で進める。 友達と役割を分担したり協力したりして最後まで仕事や遊びをやり遂げ、満足感を味わう。 友達との関係が深まり、相手のよさを認め合いながら生活や遊びを楽しむ。 異年齢児とのかかわりを深め、思いやりの気持ちを持つ。 身近な動植物の世話を通して、生命の尊さに気付く。 人の話を注意して聞き、自分の思いや考えを相手に分かるように話したり、共通の話題について話したりすることを楽しむ。
		環境 言葉 表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う考えがあることに気付き、受け入れたり、折り合いをつけたりしながらお互いを認め合う。 身近な自然や事象に関心を持ち、美しさや不思議さに気付き、生活や遊びに取り入れようとする。 生活や遊びの中で、言葉や文字・数量・図形・時間や時刻などに関心を持ち、遊びに取り入れる。 経験したことや感じたこと、考えたことをいろいろな方法で自由に表現する。
		たくましく 健やかな子ども	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って生活し、自分達で生活の場を整える。 自分の体に関心を持ち、健康で安全に過ごす方法を知り、行動しようとする。 体を動かして遊ぶことの楽しさを知り、いろいろな運動遊びに進んで取り組む。 ルールをつくったり守ったりして友達と遊ぶ楽しさを味わう。 体と食べ物との関係について興味を持ち、食を通して命の大切さを知る。 友達と一緒に食事をしながら、正しい食事のマナーを身に付ける。
環境構成・ 援助の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味や関心に合わせて流動的に環境を構成する。 個々のよさを周りの子どもに伝え、互いに認め合えるようにする。 クラス全体で取り組んだり、自分達で活動を計画したりできるような場をつくる。 		
家庭・地域・ 関係機関 との連携	<ul style="list-style-type: none"> 日々成長していく子どもの姿やクラス全体の姿を伝え、行事への取り組みやねらい、目的を理解してもらおう。 学校との連携を大切にし、定期的に連絡を取り合い、お互いの理解を深める。 地域の人や自然との触れ合いを大切にする。 		